企業特集

Company special edition

東商ゴム工業

展示会へ積極出展図る

配合から生産まで一貫提供目指す

1966年の創立以来、OA機器向けのゴム、スポンジ、樹脂ローラーやゴム単体製品を製造する東商ゴム工業（東京都墨田区、末永大介社長）。「今後は配合開発から製品まで一貫提供する会社を目指す」と語る末永社長に話を聞いた。

◇御社の生い立ちを。

創業者でもある父の末永富夫（代表取締役会長）と母の弘子が自宅（千葉県市川市）を改築してゴムローラーの研削を始めたのが会社創設のきっかけ。ただ、仕事が増えて自宅での作業が手狭になり、新たな工場の土地を探していた。その中に父の疎開先付近だった千葉県山武郡横芝光町があった。それが1973年に開設した横芝工場（千葉県山武郡）になる。

◇事業内容について。

横芝工場では、これまで複写機やプリンターなどOA機器向けのローラーを生産してきたが、OAメーカーの生産拠点が海外にシフトし、OA向けローラーを取り巻く環境は厳しくなった。それが約20年前だ。現在はOA機器だけでなく、カードゲーム機や食品、繊維、医療関連機器などの機械に組み込むロールを一貫生産で手掛けている。

◇御社の強みは。

工場には練りから押出成形機、電熱プレス機、さらに円筒研削盤も53台がある。試作量産問わずゴムローラーの加工すべて横芝工場で対応できる。また意思決定の速さも強く意識しており、至らぬ点は改善し、良い点はリスクも想定しつつ結果を恐れず積極的にトライする。これはオーナー企業の強みでもある。

一方、弱みは業界のことを知らないこと。当社は受注生産なので、どの業界でどういったゴムローラーが必要か、配合や形状などの情報も入らなかった。この弱点克服に向けて、最近は展示会へ積極的に出展し、マネージャー、アシスタントマネージャーなど社員一丸となりお客様の生の声を聞き、製品開発に生かす方策にも挑戦している。

左から末永大介社長、末永富夫会長

◇製品開発の取組みは。

ご縁が重なって開発したのが音響関連機器のレコード用ダンパーゴムだ。従来企業が製造中止を決め、調達に困っていた話を聞いて、開発がスタート。レコード自体の需要が減っている中でも、高いクオリティーの音質にこだわりを持つユーザーは多い。配合開発から取り組んできた経験が、製品開発の意識を高め、会社の風土がさらに変わるきっかけになったと思う。

◇社内体制について。

社員は42人で役員は4人。社内には製造グループ、管理グループ、品質管理グループ、営業を含めて4つのグループがある。多能工化を図るため、各グループでローテーションしている。基本的には誰もが営業、製造、管理、品質保証の立場にもなりえるという考え方だ。

◇今後の経営方針を。

ひとことで言えば、オリジナル性を高めていきたい。そのためには小ロット受注でも喜んで受けていく。当社を必要とされるお客様へのためにも、1本（1個）からでも、配合開発から製品までを一貫提供したい。同業他社が対応しきれない案件・数量・課題などをこれまで培ってきた50年以上の知見とチームワークでお役に立ちたい。

恕の精神に基づき、お客様とのご縁を通じて、結果として適正な利益を上げながら、次世代に繋がる投資を実施し、事業継続することが、先代から引き継いだ自らの存在意義と考えている。

第３５３６号

ゴムタイムス
6月17日（月）
2019年（令和元年）
毎週月曜発行
発行所：東京都千代田区神田和泉町1-10-1
ソレアードビル2F 電話(03)3861-3021
株式会社ゴムタイムス社
購読料・年間23,000円（税抜・送料込）

70th
おかげさまで創刊70周年
ゴムタイムス

信用あるパッキング素材
イルマの耐油ゴム板
入間川ゴム株式会社

主要記事

②全社増収も4社減益　自動車用ゴム決算
③企業特集　東商ゴム工業
④⑤ゴム・樹脂ロール特集（上）
⑥TOYO TIRE オフロード参戦発表会